

令和5年度 学校評価

○自己評価結果等

本年度の 重点目標	<p>①ICT機器や様々な教育的資源の有効な活用、体験的な活動を通して、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業の実践を図る。</p> <p>②円滑に社会の中で生活ができるように、その場の状況に応じて、基本的な挨拶、そして、自ら判断し、行動、表現ができる子を育てる。</p> <p>③学校生活全体を通して、思いやりや感謝の気持ちを育む。そして、自分や社会の将来の姿を思い描いて、自分の課題や自分にできることへの気付きを促し、その達成に向けて、持続的に自ら取り組む姿勢を育てる。</p> <p>④新たな視点で現状を見つめ直し、社会の変化への対応と業務の効率化により、学校全体の多忙化の解消を図る。</p>		
担当(項目)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
幼稚部	主体的・対話的で深い学びを実践する。	<p>・幼児の主体的な遊びを通して、友達や身近な大人と伝えあい、自分なりの遊びを広げ深められるようにする。</p>	<p>・異年齢児と関わって遊ぶことを通して、興味のある遊びを見つけて一緒に遊んだり、好きな遊具やおもちゃを自由に使って自分なりの遊び方を工夫したり、自分で考えた遊びを友達と共有したりする姿が見られた。</p> <p>・帰りの会では、遊びを再現しながら出てきた言葉などをホワイトボードにまとめ、視覚的に振り返りを行った。自分の経験を手話や音声など言葉にして説明することで、友達の遊びへの興味を広げる機会となった。</p>
小学部 ・ 中学部		<p>・児童、生徒の学びに向かう力を適切に評価し、さらに伸ばすための指導につなげる。</p>	<p>・デジタル教科書、ロイロノート(小学部)、Teams(中学部)を弾力的に活用し実践の幅を広げることで、主体的に取り組む姿勢の向上が見られた。</p> <p>・マネジメントシートを活用し、単元計画を作成することで、授業のねらい、児童生徒に身に付けさせたい力を明確にして授業を進めることができた。特に「思考・判断・表現」「主体的に学ぶ力」の評価に向かって、系統的な指導をすることができた。</p> <p>・教科の特性によって単元計画を立てる際のポイントが異なってくるため、各教科ごとに指導と評価の一体化について検討を進める必要がある。</p>
高等部		<p>・体験的な学習を充実する。</p> <p>・評価規準を基に学習を評価し、次の指導につなげる。</p>	<p>・総合的な探究の時間や校外学習、販売実習等では、生徒同士で相談し調べる活動を基本にして取り組んできた。調べたことを生かして実践したり、計画したりすることで、生徒の主体的な姿勢を引き出すことができた。</p> <p>・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」について評価規準を設定し、授業に取り組んだ。授業後に評価を行うことで個々の課題が見え、授業の流れや個別の配慮を再考して、次の指導につなげることができた。</p>
いじめ防止等	<p>お互いに認め合える人間関係を作り、集団の一員としての自覚と自信を身に付けられるようにする。</p>	<p>・いじめの未然防止教育の充実</p> <p>・いじめ早期発見への取組の充実</p> <p>・いじめに対する適切かつ迅速な対応ができる組織作り</p>	<p>・教師が子供たちの良いところに向け、全校集会等で紹介することで、子供たちも互いの良いところを認め合えるようになってきた。</p> <p>・保護者や寄宿舎、関係諸機関と連携することで、子供の小さな変化を早期に発見することができた。</p> <p>・SCやSSWと相談をしながら、心身のケアを検討することができた。</p>

勤務時間の適切な管理及び長時間労働による健康障害防止	業務の効率化、均等化を図り、優先順位を付けて業務に取り組むことでセルフマネジメント力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の見直し、マニュアル化を進め、ICT機器を有効に活用することで業務のスリム化を図る。 ・月2回の定時退校日の定着、通常時の施錠時間を早めることで、ワークライフバランスを充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務のスリム化に向けて、各校務分掌で検討を進めた。現在の子供たちにとって必要となる業務から整理していくことで、業務の改善や削減をすることができた。また、ICT機器を活用することでペーパーレス会議や円滑な情報共有をすることができた。 ・19時の施錠時間の徹底を図ることで、教職員が効率的に業務を遂行することができるようになった。
----------------------------	---	--	---

○学校関係者評価等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践を進める。 ○思いやりや感謝の気持ちを育む。 ○業務の効率化や多忙化解消に向けて、セルフマネジメント力を高める。
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を活用したり、生徒同士で相談する時間を設定したりすることで、子供たちの主体的な姿勢を引き出すことができた。 ○リモート交流や異学年交流などを通して、他者への意識を高めることができた。また、集会等で子供たちが頑張っていることについて職員から紹介される機会を作ることで、互いの良いところに目を向けられるようになってきている。 ○体験的な学習を取り入れて、子供たちが実際的な経験を積むことができた。 ○似たような業務についてまとめるなど、業務の見直しや改善を進めることができた。また、ICT機器を活用して、スムーズに情報共有することができるようになった。さらに、施錠時間の徹底を図ることで、効率的に業務を遂行することができるようになった。
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で深い学びを推進していく。 ○他者との関わりを通して、コミュニケーション能力の獲得や活用を促していく。 ○社会に出てから生かせる力の育成を図っていく。 ○互いに認め合え、協力し合える働きやすい環境づくりを目指していく。
その他 (学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	<ul style="list-style-type: none"> ○授業に関して <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす授業も必要である。体を使って、たくさん体験してほしい。 ・社会で一人前になるためには、体験的な活動は大切である。 ・意見を出し合って、反省して、次はどうするかを話し合う時間は、社会で生きていくために必要な力を身に付ける学習だと感じた。 ・ICT機器を積極的に利用しているが、モニターからのスピーカー音声が児童生徒にどれだけ聞こえているのかを意識して使えると良い。利用ではなく活用できているかを考えていくとよい。 ・具体物を使って説明するなど、より幼児児童生徒に伝わるような授業の工夫がみられた。一方で、具体物が発達段階に応じたものかどうかを考えて提示する必要もある。 ・前時に行った、理科の実験結果を説明してくれた児童がいた。実験の意図、流れ、結果を簡潔に説明してくれて、分かりやすい丁寧な授業がなされていると感じた。児童が発表することで、理解できていることの確認ができる。 ○人との関わりに関して <ul style="list-style-type: none"> ・人と接すること、コミュニケーションをとることなど、何気ないことが嬉しい。子供たちと接していて、改めて人と接することの大切さを実感している。 ○卒業後に関して <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶ができることはもちろん、特に、なかなか言い出せない「ありがとう」という感謝の言葉は大切なので、自然と言えるようになってほしい。 ・関係部署では、報告・連絡・相談は、絶対に必要なので、学校で身に付けておいてほしい。 ・会社においても、計画を立てる力は必要と感じている。自分のことだけでなく、一緒に行動する人のことや気持ちにも配慮できる人に育ててほしい。 ・今は学校という限られた生活だが、卒業後は広い社会に出て、生きていく力が必要になる。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> ・構成：学校評議員5名 ・評価時期：2月16日に実施

令和5年度 学校教育に関する 保護者 アンケート 結果

11月17日～12月8日に実施いたしましたアンケートについて、学校評議員の御意見も含めてまとめたものを報告します。54(84%)の回答をいただきました。御協力ありがとうございました。この結果を参考に、「子供たちが楽しく過ごせる学校づくり」「保護者が安心してお子様を送り出せる学校づくり」を進めてまいります。

質問		実数					割合					Aとてもそう思う Bだいたいそう思う Cあまりそう思わない Dそう思わない Eわからない				
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
① お子様は、楽しく学校に通えていると思いますか。	幼	10	1				91%	9%				A 91% B 9%				
	小	10	8				56%	44%				A 56% B 44%				
	中	7	8				47%	53%				A 47% B 53%				
	高	6	3	1			60%	30%	10%			A 60% B 30% C 10%				
	全	33	20	1			61%	37%	2%			A 61% B 37% C 2%				
② 学校は、教育方針や教育活動の内容を分かりやすく伝えていくと思いますか。	幼	10	1				91%	9%				A 91% B 9%				
	小	5	11	2			28%	61%	11%			A 28% B 61% C 11%				
	中	4	9			2	27%	60%			13%	A 27% B 60% E 13%				
	高	1	8		1		10%	80%		10%		A 10% B 80% D 10%				
	全	20	29	2	1	2	37%	54%	4%	2%	4%	A 37% B 54% C 4% D 2% E 4%				
③ 学校は、子供たちにとって分かりやすい授業作りに取り組んでいると思いますか。	幼	11					100%	0%				A 100% B 0%				
	小	5	13				28%	72%				A 28% B 72%				
	中	4	9	1		1	27%	60%	7%		7%	A 27% B 60% C 7% E 7%				
	高	3	4		1	2	20%	40%		10%	20%	A 20% B 40% D 10% E 20%				
	全	23	26	1	1	3	43%	48%	2%	2%	6%	A 43% B 48% C 2% D 2% E 6%				
④ 学校は、健康の保持増進・衛生に関する指導を行っていると思いますか。	幼	4	7				36%	64%				A 36% B 64%				
	小	3	12			3	17%	67%			17%	A 17% B 67% E 17%				
	中	3	11			1	20%	73%			7%	A 20% B 73% E 7%				
	高	4	4			2	40%	40%			20%	A 40% B 40% E 20%				
	全	14	34			6	26%	63%			11%	A 26% B 63% E 11%				
⑤ 学校は、お子様のコミュニケーション力を高める支援をしていると思いますか。	幼	9	1	1			82%	9%	9%			A 82% B 9% C 9%				
	小	9	9				50%	50%				A 50% B 50%				
	中	5	7	1		2	33%	47%	7%		13%	A 33% B 47% C 7% E 13%				
	高	3	4	1	1	1	30%	40%	10%	10%	10%	A 30% B 40% C 10% D 10% E 10%				
	全	26	21	3	1	3	48%	39%	6%	2%	6%	A 48% B 39% C 6% D 2% E 6%				
⑥ 学校は、子供たちが互いに認め合う、いじめに対応できる学校づくりに努めていると思いますか。	幼	7	3			1	64%	27%			9%	A 64% B 27% E 9%				
	小	8	8			2	44%	44%			11%	A 44% B 44% E 11%				
	中	5	7	2		1	33%	47%	13%		7%	A 33% B 47% C 13% E 7%				
	高	3	5	1		1	30%	50%	10%		10%	A 30% B 50% C 10% E 10%				
	全	23	23	3		5	43%	43%	6%		9%	A 43% B 43% C 6% E 9%				
⑦ 学校は、子供に関する悩みや相談を気軽にできる雰囲気はありますか。	幼	8	3				73%	27%				A 73% B 27%				
	小	7	8	2		1	39%	44%	11%		6%	A 39% B 44% C 11% E 6%				
	中	2	11			2	13%	73%			13%	A 13% B 73% E 13%				
	高	3	5		1	1	30%	50%		10%	10%	A 30% B 50% D 10% E 10%				
	全	20	27	2	1	4	37%	50%	4%	2%	7%	A 37% B 50% C 4% D 2% E 7%				
⑧ 学校施設の安全管理は、適切に行われていると思いますか。	幼	5	5	1			45%	45%	9%			A 45% B 45% C 9%				
	小	4	11	1		2	22%	61%	6%		11%	A 22% B 61% C 6% E 11%				
	中	5	9	1			33%	60%	7%			A 33% B 60% C 7%				
	高	2	8				20%	80%				A 20% B 80%				
	全	16	33	3		2	30%	61%	6%		4%	A 30% B 61% C 6% E 4%				
⑨ 学校の授業参観や行事の回数は適切だと思いますか。	幼	5	5			1	45%	45%			9%	A 45% B 45% E 9%				
	小	4	12	2			22%	67%	11%			A 22% B 67% C 11%				
	中	7	8				47%	53%				A 47% B 53%				
	高	2	5	1		2	20%	50%	10%		20%	A 20% B 50% C 10% E 20%				
	全	18	30	3		3	33%	56%	6%		6%	A 33% B 56% C 6% E 6%				
⑩ 学校は、お便りやホームページ、ブログ等で適切に情報発信をしていると思いますか。	幼	3	8				27%	73%				A 27% B 73%				
	小	6	12				33%	67%				A 33% B 67%				
	中	7	8				47%	53%				A 47% B 53%				
	高	2	7	1			20%	70%	10%			A 20% B 70% C 10%				
	全	18	35	1			33%	65%	2%			A 33% B 65% C 2%				

【今後に向けて】

幼稚園部	<ul style="list-style-type: none"> 幼児が成長するために必要な保育環境を意識し、分かりやすく安全に活動できる環境づくりに努めていきます。 幼児の実態や保護者のニーズを丁寧に確認し、保護者と共通理解を図りながらコミュニケーション力の育成に引き続き取り組んでいきます。
小学部	<ul style="list-style-type: none"> いじめに対応できる学校を作っていくために、児童との日頃のコミュニケーションを大切に、気軽に相談できる雰囲気づくりをしていきます。 懇談等を通して保護者、児童のニーズを把握し、日頃の支援、学校づくりを心掛けていきます。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> 部の教育活動や普段の学習活動の様子がより伝わるように丁寧に発信し、理解につなげていきます。 多感な時期であることを念頭に、生徒に寄り添い、相談しやすい雰囲気を作り、環境を整えていきます。
高等部	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容も多角的な見方が必要になってくる。デジタル教科書などのICT機器の活用とともに、これまで学習してきた内容とのつながりを意識したスモールステップの学習に努めていきます。 卒業して社会に出る前に、悩んだときに相談できる相手を見付けておくことや、自分の今の気持ちを言葉で伝えるなどのコミュニケーション力とともに「相談する力」を身に付けておくことを教育活動として大切にしていきます。